

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

さくらそう A棟

日付 平成 21年 8月 20日  
特定非営利活動法人

**評価機関名**

ライフサポート

評価調査員 介護支援専門員経験3年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

津山駅から車で20分ほどで鏡野町の男女山トンネルを過ぎると長閑な田園地帯にホームがある。国道に面しているため敷地内はフェンスがしてある。フェンスの傍には各棟毎にプランターに花が植えられ、中庭には各棟ごとに季節の菜園がある。玄関入り口は国道に向かって少し傾斜があるため、玄関のドアが開くとチャイムが鳴り職員が対応しやすくしている。また、玄関入り口には地域の小学校の子供かけこみ110番看板を設置している。玄関正面にスタッフルームがあり来客者や利用者が気軽に相談に来所できるようにしている。

平成18年5月ホームの代表者は町内の出身であり、弟さんが町内で医師をしており、町内の高齢者に伴い独居老人も増えていることから町民の生活や健康に少しでも役に立ちたいという思いから当初1ユニットからスタートし、平成19年4月2ユニット目を増床した。ホームの理念は代表者と管理者で協議し、さくらそうの理念を作成し、各棟ごとにユニットの入り口に掲示し、職員や家族がいつでも確認できるようにしている。外部評価や実地指導での具体的指示があれば文章で職員に伝達し、改善点をカンファレンス会議で検討している。また、ユニット毎の目標はないが、新しい職員には書面と口頭にて管理者が説明し、日々の介護の中でも適宜指導を行っている。毎月のカンファレンス会議で利用者の状況の変化や問題行動など話し合い、季節に応じた月目標を検討し、5月は散歩・日光浴、6月は水分補給などユニットごとに目標設定し実施している。今年度春からホームに代表者の子息が常務として勤務し、利用者の特徴や介護現場の把握などに真剣に取り組んで、両ユニットの管理者と共に地域の人々に親しまれる施設づくりのため努力している。子供かけこみ110番、町内のグループホームとして初のADEを設置したり、地域の文化祭に作品を展示したり、地域の幼稚園や小学校、中学校との交流の取り組みやボランティアの受け入れなど積極的に取り組んでいる。ホーム開所時に家族会を立ち上げており納涼祭やクリスマス会に協賛し、4ヶ月に1回の運営推進会議に積極的に参加するなど協力的に活動している。

利用者に季節感を感じてもらえるように、職員とのかかわりを大切にし、抑制を避け、生活リハビリを大切にして、できることはしてもらいながら身体機能維持に努めている。利用者は町内の人が多いので、利用者同士ユニットの垣根をなくし自由に交流できるようにし、健康で安心、安全な生活が送れるように常に気配り・目配り・心配りに注意し日々の介護に取り組んでいる。

**特に改善の余地があると思われる点**

施設の立地条件もあり設立時から玄関の段差及びスロープの傾斜部分があり、徘徊時のリスクが考えられるので、予防策の検討が必要である。ホームの周囲には砂利が敷き詰められており、車椅子の利用者が行動しにくいと検討してもらいたい。A棟の非常口についても段差があり、車椅子で非難できないので改善の検討が必要である。

介護記録については、役場の方針もあり1時間おきに記録をとっているが、記録に時間を掛けているわりに見にくいとため、記録について再度検討する必要があると思われる。介護計画については、ただ作成し3ヶ月に1回カンファでモニタリングするだけでなく、日々実行可能で、それが日々の介護に役立ち、効果があつたかが大切であると思う。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 全体的に見て… ホーム設立から3年経過しているが、代表者の思いである地域密着型として町内の人や地区の方々の役に立ちたいという思いを大切に日々努力し、常に理念を管理者は会議の場で職員に「明るく安全で安心した生活をしていただき、心配りを大切にしてい」を口頭で伝えているため、職員の姿に明るく元気で常に季節感を味わうように気配りもできている様子が伺えた。年を重ねるたび地域の人々との交流も増え、信頼関係も増してきている。</p> <p>2. 自主評価について… ホームの理念の目指しているところを実現するため日々努力し、書面だけでなく口頭で機会ある毎に職員間で確認し共通理解できている。運営推進会議の席上や、さくらそう通信を活用して家族や地域の方にホームの理念やホームの様子などを伝え、地域に親しまれる施設として努力している。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 全体として… 奥津ダムの建設のため立ち退きの人が多く、昔生活していた家の周囲の写真や家族の写真などを居室に掲示することで精神的に落ち着いた生活ができている。また、居室から長閑な田園風景が見られ、四季の変化も感じることができるようになっている。利用者同士が同町内の知り合いもあり、話相手があり安心感もある。</p> <p>2. 自主評価について… 施設の立地条件もあり施設内に砂利部分もあり車椅子での移動がしにくい不便さもあるが、国道沿いの長閑な田園地域という利便もあり、散歩などにて四季の変化を味わいやすく、自然とのふれあいが精神的にやすらぎを与えている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 全体的に見て… 入所前の面接時ADL、病歴、生活歴、性格、趣味など家族や本人、医師や担当ケアマネから情報を受け、入所後本人から“古き良き時代”の思い出を、個人を尊重するように生かし、プライドを傷つけないように声かけをしている。利用者の行動を抑制しないで各棟を自由に往来できることや、施設の立地条件が国道に面し玄関が坂になっていることで、かえって利用者が離脱などしないで生活できている。利用者が町内の人なので、知り合いが多く安心感もある。</p> <p>2. 自主評価について… 利用者の半数が車椅子のため集団レクリエーションがしにくいので個別に対応している。食事の献立も旬の野菜をふんだんに取り入れ、利用者の希望を取り入れ献立に生かしており、個々の利用者の能力に合わせてプライドを傷つけないように皮むきなどをしてもらい、生活リハビリを行なっている。掃除、洗濯など個々の能力に合わせて行動し、機能維持を図っている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 全体として… さくらそうたよりを2ヶ月に1回発行し家族や関係機関に配布している。運営推進会議に役場や包括の職員、地区の区長や議員、地域のケアマネ、家族、利用者が集まり、地域の公民館を会場に有意義な会議をしている。また、地域との交流が年を重ねる毎に増しており、地域に親しまれてきている。今年度から奥津湖での鏡野町納涼祭に協賛する予定である。ボランティアの慰問も2ヶ月に1回程度であり、モンゴルの歌や腹話術、手品など利用者も楽しみにしている。</p> <p>2. 自主評価について… ホームの立地条件もあり開所時から庭に砂利が敷かれ車椅子での移動がしにくく、非常口に段差あるため車椅子が安全に移動できないため毎年口頭で改善を代表者に伝えているが、未だ実施できていないため、利用者の安全第一に早期に改善に努めてもらいたい。火災時の避難訓練が日中ではできているが今後夜間を想定し、地区の消防団や地域の方の協力のもとに避難訓練が実施できるように検討してもらいたい。</p>		